

感激した“国賓待遇”

畑 忠

あの有名なナイアガラ滝から車で一時
間半の所に、私たちの姉妹都市ダンダス
町がある。地図の上では、五大湖のひと
つオンタリオ湖の西端に位置している。

私たち 第四回加賀市生活体験学生団
(中・高校生三十三人、引率五人)がナ
イアガラ滝をへてこの町を訪れたのは、
二年前の八月始めであった。私たちのバ
スがダンダス町のあるウエントワース・
カウンティに入ると、公務でエスコート
してくれる警官のバイクが、いつの間
に私たちの前を走っているのに気付く。

町のメイン・ストリートにさしかかると、
ビルとビルの間に張った大きな横断

幕の一字一字が目
に飛び込んで来る。

●ダンダス町
WELCOME TO
DUNDAS, KIDS
FROM KAGA. 歓

迎会場へわざわざ
迂回して町の中を
進むバスの窓に、町の

人達のにこやかな、そして暖
かい歓迎の顔々が王二の声に
混じって、次々と現れる。引
率している子どもたちも、思わ
ず王二とまねる。日本で会話練習をした

時の数倍もの大きな声で答えている姿を
見て、熱いものが私の胸にこみ上げてく
る。

ホーム・ステイ中、どうしても忘れら
れないことは、私たちに町議会の傍聴を
許可してくださり、議事のひとつに私た
ちを名誉町民にする議案が上程され、満
場一致で可決されたことである。ベネッ
ト町長より、私たち一人一人が名誉町民
の証書をいただき、とても感激した。そ
のお礼に、祭のはつびをプレゼントした
ら、Happy Come!と言って町長自らそれ
を身につけ、豆絞りの手ぬぐいに、はつ
び姿で議事の運営にあたっておられた。
祭の時に使用するものであることを説明
したのに、公の議会で最後まで身につけ
てくださり、とてもうれしく感じた。

また、後日、日本の総領事やカナダの
文部次官の方があいさつに見えたが、初
日にエスコートして下さった警察官や、
歓迎会場に見えて、私たちとホスト家庭の
家族の方々と一緒に記念写真におさまっ
て下さったカナダの連邦警察の騎馬警
官の方々と共に、日本では考えられない
ことであった。私たちは、まるで国賓の
ような待遇を受けているようで、感激の
しつばなしであった。

約三週間の滞在で一番子どもたちの思
い出に残ったのは、ナイアガラの滝の観
光と、広大なトウモロコシ畑に飛び込ん
で、いくつものもぎ取ってそれをゆで、大
きなバターのかたまりをこしこすり込
んで丸ごと食べたことではないかと思う。
青空の下、ダンスをする者、パーベキエ
ーに舌鼓を打つ者、友人のホスト家庭の
方々と話す者——まさに大自然の中の生
活体験であった。

このようなダンダス町と加賀市の中、
高校生によるホーム・ステイ交流は、互い
にもう四回を数えるようになった。感受
性の強い若い時代に学ぶ生活体験は、言
葉や習慣が異なっている、人間として
互いに心を通わせることができ、また互
いの国情を世界的視野で理解し合うこと
ができる若者が一人一人増えて行くこと



ダンダス訪問は貴重な生活体験であった。

につながる。

●加賀市
姉妹都市ダンダス町
との交際は、あの体験旅
行が終わった時点から始まっ
たとも言ってもよい。息の長い
交際を今後とも続けるために、
両市民が良い知恵を出し合って、いつま
でもがんばりたいものである。世界に多
くの姉妹都市があるにもかかわらず、私
たちのように活動的に十余年間も継続し
ている都市は、少ないのだから。

(加賀市・錦城中学校教師)

石川県加賀市とオンタリオ州ダンダス
との姉妹都市提携がなされたのは昭和四
十三年。北米で初めて世界連邦平和都市
宣言をしたダンダスが、その記念事業と
して同様な宣言をしている日本の都市と
姉妹提携をしたいと、東京の世界連邦建
設同盟に斡旋を依頼したのがきっかけで
あった。

その後両市は、学童の図画作品の交換、
親善使節団や生活体験学生団の相互訪問
などを通じて、交流を深めている。

ダンダスは、オンタリオ湖の西端に位
置する商業都市で、工業都市ハミルトン
のベッドタウンでもある。一八四八年に
建てられた町庁舎は、オンタリオ州で最
も美しい公共建築物のひとつとして知ら
れる。一九六七年、世界連邦平和都市を
宣言した。